

初めてのホームステイでの成長

富士学苑中学校

天野 佑衣子

コロラドスプリングス姉妹都市派遣事業は私をとて成長させてくれました。私は中学一年の時からこの事業に参加したかったので、参加できてとても嬉しかったです。

初めはこれから体験する様々なことへの楽しみとともに自分の英語がどれだけ通じるのか、一緒に行く派遣団の皆やホストファミリーとの生活を楽しめるのか、という不安がありました。しかし、派遣団の皆はとても明るく、ホストファミリーは優しく受け入れてくれたので、その不安はすぐになりました。

ホストマザーは食べたい物や行きたい所など聞いてくれて連れて行ってくれました。私は一番食べたかったハンバーガーが食べられて嬉しかったです。アメリカのハンバーガーはとても大きく、肉も厚く美味しかったです。夕飯は家族そろって食べました。今日の出来事など、会話をゆっくり楽しみながら食べたのが印象的です。

英語が通じなくて困ったことはあまりなく、単語やジェスチャーを使いながら話したら言いたいことが伝わりました。ホストファミリーは分かりやすくゆっくり話してくれ、普段の生活など様々な事を教えてもらいました。子供たちに日本からのお土産をあげたら、とても喜んでくれました。ふりかけをトーストにかけて食べたり、けん玉に挑戦してくれました。日本語の本の読み聞かせをしたことがとても思い出深いです。言葉が違うのに沢山の会話が出来たことが何よりも嬉しかったです。

私が一番心に残ったことはホストファミリーで行ったハイキングです。川に入ったり、サンドウィッチを食べたりして、ほんとうに嬉しかったです。

また、アメリカは日本より道も、スーパーも大きく、驚くことばかりでした。スーパーでは日本で売っていない食べ物があり、つい沢山買ってしまいました。パイクスピークというコロラド州で一番大きい山を見たときは感動しました。

コロラドスプリングス市と富士吉田市の姉妹都市派遣事業 30 周年記念パーティーで、ソーラン節を発表したとき、ホストファミリーは手をたたいて喜んでくれて嬉しかったです。練習の成果を発揮することが出来ました。

私は二つのことに気付きました。一つ目は、アメリカ人は自己主張を当たり前にすることです。ホテルで朝食を食べるとき、フォークとナイフの場所がわからず困っていたが、店員さんはそれを教えてくれず作業をしていました。しかし、それは困っている私から聞くべきです。私は自己表現をもっと進んで出来る人になりたいと思いました。二つ目は、買い物に行くと、レジで「気分はどう？」とか話しかける習慣があるということです。ここで日本との違いを感じ、私ももっとフレンドリーな人になりたいと思いました。レストランに行ったとき、「アメリカでの生活を楽しんでね」と言われ、ジュースをサービスでもらったときは嬉しかったです。

私は初めてホームステイをさせてもらえて、積極性がつくことができました。これからは色々なことを諦めずに最後までやりきる人になりたいです。そして、英語をもっと話せるようになって、将来英語を使う仕事がしたいです。この貴重な経験をさせてくれた家族や学校、お世話になった市役所の方々に感謝の気持ちを忘れずこれから生活していきたいです。